

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第9回(令和元年度第6回)武蔵村山市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和2年1月24日(金) 午後2時から午後3時まで
開 催 場 所	武蔵村山市役所301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者:佐々委員(会長)、布田委員(副会長)、志茂委員、乙幡委員、 前川委員、比留間委員、大熊委員、齋藤委員、谷治委員 欠席者:大友委員、平見委員、田島委員 事務局:子ども育成課長、同課児童担当課長、同課主任、同課主事
議 題	1 意見公募の結果等について 2 武蔵村山市第二期子ども・子育て支援事業計画に対する答申(案) について 3 その他
結 論 (決定した方針、残された 問題点、保留事項等を記 載する。)	議題1:原案どおりとする。 議題2:原案どおりとする。
審 議 経 過 (主な意見等を原則とし て発言順に記載し、同一 内容は一つにまとめる。)	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>第8回(令和元年度第5回)武蔵村山市子ども・子育て会議の会議結果について (事務局説明)</p> <p>資料1を御覧いただきたい。</p> <p>第8回会議については、令和元年11月29日午後2時から市役所4階403集会室で開催した。議題は、「1 計画素案について」、「2 武蔵村山市第二期子ども・子育て支援事業計画(素案)に対する意見公募要領(案)について」、「3 その他」であった。</p> <p>内容としては、議題1及び2については内容を一部修正の上原案のとおりとすること、次回の会議日程については令和2年1月24日(金)に開催することを確認した。</p> <p>続いて、委員からの質問に対し、所管課に確認する必要があることから当日、回答できなかった事項が何点かあったため、この場で回答させていただく。</p> <p>はじめに、会議録の10頁上から3つ目の委員の発言を御覧いただきたい。</p> <p>1点目、児童虐待防止のネットワーク事業にある協議会とはどのような内容で、どのような参加者かとの質問であった。</p> <p>所管課である子育て支援課に確認したところ、内容については、児童をめぐる状況について個々のケースに応じた内容の情報共有・進行管理や事例の検証報告等を行い、今後の課題と対応について協議を図っているとのことであった。また、参加者については、個々のケースにより関係者が変わるものの、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、特別支援学校、警察、消防、児童相談所、保健所、医師会、社会福祉協議会、人権擁護委員、民生児童委員等の関係行政機関、法人、団体が参加している。</p> <p>続いて、10頁の下から5行目を御覧いただきたい。</p> <p>2点目、休日保育事業の実施について、民間の保育園1園で検討いただいております。11月いっぱいには、本年度開設できるかどうかの回答をいただけるとのことであった。このことについては、現在、3月中の開設に向けて準備を進めているところである。</p> <p>続いて11頁の上から4つ目の会長の発言を御覧いただきたい。</p>

3点目、廃止事業とされている青少年の健全育成に係る質問であった。

所管課である文化振興課に確認したところ、廃止事業とされている3つの事業のうち、「青少年健全育成協力店指定制度」及び「青少年健全育成講演会」については、事業として予算措置が図られていないことから第二期計画への登載はしないものとしている。一方、「子どもの健全育成サポート事業」については、予算計上の上、事業として継続していることから、事業内容を修正の上、第二期計画に引き続き登載することとした。

前回会議で保留となっていた回答については、以上である。

—質疑・応答—

特になし。

3 議題

(1) 「意見公募の結果等について」

それでは、資料2を御覧いただきたい。

本計画素案について、より市民ニーズに即したものとし、素案に対する意見を広く市民等から募集するため、令和元年12月12日（木）から本年1月11日（土）までの約1か月を意見の募集期間として、パブリック・コメントを実施した。

パブリック・コメントの周知方法については、市報及びホームページへの掲載のほか、市公式ツイッター・フェイスブックに投稿、また、市役所市政情報コーナーをはじめ各公共施設に素案を備え置いた。

その結果、ホームページ専用フォームから1件（1人の方から4件）の意見が寄せられた。意見の内容は、「3意見の概要と市の考え方」とおりである。いただいた意見は、第二期計画の策定に当たり、十分に考慮することとし、提出者個人への個別の回答は行わないこととしている。また、提出された意見等は、氏名等は秘匿の上、結果を公表することとしている。

そこで、意見への対応だが、事務局としては、素案の修正を要する意見ではないものとして、意見に対する市の考え方を示すものとして取り扱いたいと考えている。本日の会議で取扱いについて承認をいただければ、来月4日に開催が予定されている市議会全員協議会を経て、市ホームページ上に公表する予定であるため、よろしくお願い申し上げます。

事務局からの説明は以上である。

—質疑・応答—

（会長）かなり幅広く見ていただいたと感じる。それに対して市がきちんと対応しているという感想を持った。ありがたい意見である。

(2) 「武蔵村山市第二期子ども・子育て支援事業計画に対する答申（案）について」

それでは、資料3を御覧いただきたい。

武蔵村山市第二期子ども・子育て支援事業計画に対する答申案である。平成31年3月25日付文書をもって市長から諮問のあった本計画の策定に対する子ども・子育て会議からの答申内容となる。

答申案の別紙を御覧いただきたい。子ども・子育て会議の意見として、総論的事項と個別的事項に分けて記載をしている。個別的事項に記載をしている内容については、本会議で各委員から意見のあったもののうち、主要なものを整理している。字句等の修正に係る意見については、記載していないため御了承いただきたい。

なお、答申書について、本日決定をいただければ、来週29日(水)に会長及び副会長から市長に対して手交いただく予定でいる。

事務局からの説明は以上である。

—質疑・応答—

(委員) 別紙の2、個別的事項にある第2章第1節2(3)の「合計特殊出生率」とは何か。

(事務局) 15～49歳の年齢別出生率を合計したものである。ひとりの女性がその年齢別出生率で一生の間に産む子どもの数の率を表している。厚生労働省から直近の数字が発表され、武蔵村山市が1.55ということで、多摩26市で1番上位の合計特殊出生率になった。

(会長) 前は東大和市が1番だった。上回ったということ。

(事務局) 今回東大和市は2番目だった。

(委員) 前は町村部で檜原村が1番だった。市部はまた別ということか。

(事務局) そうである。説明としては以上である。

(会長) 何人子どもを産むのかという実績を計算して算出していくもの。2.0にならないと人口が減ることになる。東京都の平均は1.3くらいだったか。かなり低い数字だったと思う。2.0を切ると、どんどん少子化が進んでしまうので、厚生労働省の方で合計特殊出生率というものを出している。よくテストにも出てくる。昨年2019年の出生数は84万人くらいだったかと思う。その前は90万4,000人だったと思う。ちなみに私が生まれた戦後の昭和22年は389万人くらいだったと思う。昭和22年1月から12月の数字になり、その次の3年間は団塊の世代と言われる。終戦後、新たに家族を形成しながらというところで、これくらいの数字になっていた。現在と比較すると約4倍である。90万4,000人だったのがまた84万人に減っていつているわけで、近辺を見ていると赤ちゃんが割といる印象だが、全国を見てみると少なくなっている。外国の方が来られてそこで生まれるということもあると違って来るが、(集計対象は)日本国民かどうかということになるのだろうから出生数にカウントされていないと思う。(数字としては)寂しい状態になっている。晩婚化や貧困率も関わってきて、なかなか厳しい状況とを感じる。

(会長) 年齢の分けの仕方で15歳から64歳までというのは生産年齢人口である。私の時代では15歳で中学校を卒業すると、半分以上が集団就職という形で就職をする方がいた。今は高校など学校に行くという方たちがいた場合、アルバイトはするけれども就職して報酬を得てという見方をすると、生産年齢そのものの見方は変わっていない。そうするとかなりいろいろな見方が変わってしまうのでは

ないかと以前から思っている。今99%くらいが高校を卒業して、というような状態である。しかし、進学後にうまくいかなくて辞めてフリースクールの方に行ったり、フリーターになる人たちもいる。社会状況が変わってきたことをもう少し違った観点から見ていかないと、少し違うのかなと個人的には思う。生産年齢人口は15～64歳、合計特殊出生率の対象は15～49歳。もう少しすると私も社会保障の対象として大変御迷惑をかける重たい世代となる。戦争もなく、いろいろな面で頑張ってきた成果であるかと思うが、(今後の社会保障の面で支えることが)難しくなっていくことが分かっている、世代として人数が多いと言われてきた。もうあと2～3年間は重たくなっていくということになっている。しかし、子どもに関しては、武蔵村山市の1.55という数字は喜ばしいことである。

(3) その他

(会 長) 答申をする前の会議としてはこれで終わりである。そうすると、その先は答申をした後に議会があって、そこで得られた内容を受けて、3月の末に冊子として刊行されるということになる。この委員たちがまた集まるのはいつ頃になるか。

(事務局) 次回は7～8月頃を予定している。

(会 長) 作成過程を見させていただき、武蔵村山市の177事業について、東京都の中で、それだけ「子ども」に対してこれだけ事業があることをきちんと見える形にしているのは割と少ない方だと思う。そういう面では、第一期の計画よりも出された事業数がもう少し増えた。修正や統廃合が入ることもあったが、その一つ一つを読ませてもらい、疑問点についても出していただき、またそれぞれの担当部署に戻って意見をいただき、実際はどのようなことをしているという回答もいただいて、それでもなお分からないことについてはまたもう一度お聞きいただく、というやりとりをした結果として、最終的に177事業ということになった。「子ども」ということで、地域でいろいろな側面からのものがしっかりと「見える化」されているということが本当にありがたいことだと思う。この間、御出席いただき、また、お仕事の関係などで御出席いただけないこともおありだったかもしれないが、資料がお手元に届いて、御意見をいただいたりしたかと思う。次回は7～8月頃、6か月程先ということで、実際にその時はどのようなことをするかまだ分かっていないが、せっかくなので、ここで各委員から一言ずついただければと思う。

(委 員) 就学前の子どもでこれだけの事業が関わっているのだと分かり大変なことだと感じた。関わる大人みんなで子どもを育てていくということが重要だと思った。小さかった子どもが大人になり壮年になる、同じ時代を生きて共に成長して今があるのだと思った。今いる子には将来を頼むのではなく、将来も一緒に生きていくということかと思う。

(委 員) 今、虐待の話題に一番心を痛めている。子どもはどのような気持ちだったのだろうと。そういうことのないようにしなければいけないと思う。

(委員) 3月にこの計画が実際に発行されるとなると、私どもはこれが最後の任期とっていてよいのか。市はこの会議はいつまでやっていくのか。

(事務局) あと1年は任期がある。委員は去年の8月に改選したが2年が任期である。今回、計画ができたが、見直し、進捗状況の点検・評価などがある。

(委員) この会議に出て、委員によっては最初から出ておられ、いろいろな意見を聞くこともできて勉強になった。私としては今後も会議が続くのであれば努めていきたいと思いつつながらお聞きした。第二期の計画ができたということは、会長をはじめ皆さまの努力のたまものと思う。

(副会長) 私は最初から委員をやっており、後期高齢者である。私の時代は、男子は中卒後3分の2が就職。女性は2分の1が進学。女性の方が学校に行くことが多かった。中学校を出たら、女の子は高校へ行くが、私たちは同窓会に出ても引け目を感じたものである。拝島周辺に町工場が多くあり、立川にも町工場があり、昔と今では子どもを取り巻く環境は大きく変わった。昔は、出稼ぎで子守りをしていた話、障害のある子は外に出さない、外では籠に入れて連れていくなどの話もあったが、今、保育士さんの講習会で皆オープンに出てくる。今は登校する小学生たちと一緒に学校に行くなど、楽しく過ごさせている。ありがとうございました。

(委員) 市民の1人として参加した。3人の子どもを育て、3回産休をとって仕事も続けている。この会議は勉強の場になった。小学校、学童など多くの方に支えてもらっており、この会議への参加は楽しみであった。

(委員) 参加させていただきありがとうございました。23歳、19歳、12歳の3人の子どもがいる。30年ほど前、東京に来るまでは新潟にいて、東京に来てから、なんて子育てしにくいのだろうと感じ、NPOを立ち上げた。30年前は、親も少しけがをしても「いいよいいよ」という感じだったのが、今は「なにこのけがは！」となる。親も変わってきた。先日も、子どもが学校に行かない、自分は仕事がある、校長には「連れてきてもらえれば」と言われどうすればよいか分からないと相談された。教育相談室の話をしたが、その方は御存知なかった。せつかく計画を作ったのだから、相談場所などお母さんたちに分かりやすいようにしてもらえれば行きやすいのだろうと思う。今、保育士を育てているが、虐待、生きづらさなど、お母さんたちの道しるべになるような人を育てたい。自分は子どもを産む前に武蔵村山市に来て、知り合いもなく、買い物も車に乗せてもらって、半年ほどしてから子どもと外出できるようになった。市報に載っているところも行けなかった。2人目でやっと心の余裕ができた。今回の会議でこんなに頼りになることが市にあったのだと分かり、もっと早く知っていれば余裕もできたと感じた。ありがとうございました。

(委員) 自分の子どもが生まれて2か月。武蔵村山市にこんな事業があったのかと改めて知った。これから下の子を保育園に預けて暮らしていくに当たり安心だと感じた。計画ではここはどうかと感じるところもあった。これからも意見など機会があれば言っていきたい。

	<p>(会 長) 私は東京62自治体のうち52自治体の計画について調べた。他自治体の計画づくりでも依頼されたが、教育と福祉が別部署なのが当たり前と思っていたが、それぞれの事業がここほどあるのはむしろ珍しい。13事業と量の見込みだけ計画に載せるといふところもある。大きい自治体はいろいろやって待機児童も解消していくのだろうが、どのような規模であれ、子どもが健やかに育つための環境を親は求めるはず。こちらの会議では、この部分はどうですかと質問すると、関係部署に確認してくださり回答いただく、というやりとりをしながら計画を作ってきた。このことは大変なことである。妊娠期からのことなど国の政策も変わったが、では市はどうか、が問われている。皆さんのお力のお陰で、良いものになったと思う。部署の方々も、この後も議会なども頑張ってください、最後のまとめまで頑張ってくださいたい。皆様どうもありがとうございました。事務局から他にあるか。</p> <p>(事務局) 令和2年4月1日に組織改正を予定している。文化振興課の青少年関係の事務が移管され、子ども青少年課と課の名称も変わる。前回の素案から冊子になる段階で別の課名になるところが出てくることを御了承いただきたい。</p> <p>(事務局) 9回にわたる会議、会長、副会長、各委員の皆さま、お忙しい中を御出席いただきありがとうございました。事務局として感謝申し上げたい。次年度以降、しっかりと計画の事業を進行できるよう管理していきたい。1年間ありがとうございました。</p> <p>4 その他 特になし。</p> <p>5 閉会</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 []	傍聴者： <u> 0 </u> 人
-------------	---	-------------------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
--------------	---

庶務担当課	健康福祉部 子ども育成課 (内線：182)
-------	-----------------------

(日本工業規格A列4番)